

2006  
02.07

17-12

# 博物館ニュース

## 液浸標本メンテナンス

本館所蔵の動物標本約400点のうち、300点余りが鈴木庄一郎博士の採集によるものです。生物の授業の一環として1946年（昭和21年）より開始された臨海実習では、飛島・鼠ヶ関を中心に多数の価値ある標本が採集されました。本館所蔵のものはその一部です。

長年の月日が経過し、保存液が蒸発するなど、近年の保存状態は決して良い状態ではありませんでした。この度山大文化財リサーチプロジェクトpart2の標本のデータベース化の推進作業の一環として、液浸標本のメンテナンスが行なわれました。半澤直人助教授（理学部生物学科・附属博物館学芸研究員）の研究室の学生の皆さんのご協力のもと、昨年末から作業が始められ、1月末に非常に見やすい状態となって、博物館へ戻りました。標本を是非ご覧ください。県内で採集された珊瑚や完模式標本など珍しい標本もあります。



### 鈴木庄一郎博士

1944年（昭和19年）に山形師範学校に赴任、以来退官されるまでの30数年にわたり、理科教師の育成に力を尽くされ、本県内外に優秀な教育者を送り出してきた。博士の専門は「原生動物・プレファリスマの形態形成」。また、漁家に生まれた博士は幼い頃から海辺の動物に親しまれ、本県における海産動物分類の第一人者でもあった。

### 山大文化財リサーチプロジェクトpart2

山形大学の学部・部門1プロジェクトとして附属博物館が申請したプロジェクト。内容としては、自然科学系資料のデータベース化の推進、附属博物館が所蔵する資料を中心とする科学的な調査、昨年度同プロジェクトで学内で発見された有名作家の彫像の修復が予定されている。